

教育委員Essay
シリーズ
第3回

四季の料理

大分県教育委員

波多野順代

我が家の一年は、季節を追いかけて結構忙しく過ぎるように感じる。冬の寒い時期は、蒟蒻作り、ベーコンなどの薫製、春先は山で採れる筍や蒨の料理、初夏は庭先の梅で梅干しや梅酒作り、同じ時期にらっきょう作りも重なりなかなか気が抜けない。夏は甘酒饅頭作りに精を出し、和蒸籠で蒸し上げた饅頭のきばえに一喜一憂する。生きている麹菌はデリケートで思い出に残っている母の味にはまだまだ近づけない。実りの秋は、このほ



酒饅頭蒸し

か忙しくなり、栗の渋皮煮やナスのからし漬けなど台所での夜なべ仕事が増える。単純な作業の繰り返しだったりするが、静かな夜、無心に取り組めるのが良い。料理はどれも難しいが、とくに梅干しのように、一年に一度しか作ることができないものはなかなか思い通りにいかない。今年は思い切って自分流を捨てて、名人のレシピを忠実に再現してみることにした。曖昧な部分や自分で手を抜いていたことの確認ができ、改めて基本に立ち返ってみるものの大切さに気づいた。

考えてみると、私が今一生涯命やっているこのようなことは、子供の頃はどこの家庭でもごく当たり前に行われており、けっして珍しいことではなかったように思う。それぞれの家庭には、その家にしかない味があり、ご馳走ではないがそれを食べると何となく「うーん、これこれ」と家族を感じる何かしらの料理があった気がする。



黒豆パン

しかし時代の変化とともに、家庭の機能は急速に社会化し、様々な食品が店頭にあふれ、時間をかけずに便利で手軽な調理済みの惣菜などを手にすることができるようになった。私自身も、結婚

して家庭を持ち日々の仕事や子育てに追われる中で、そのような便利さの恩恵を十分すぎるほど受けてきたが、心のどこかで気に掛かるものがあった。



〈波多野委員の経歴〉

昭和44年4月 大分県立佐伯豊南高等学校教諭
昭和48年4月 大分県立佐賀岡高等学校教諭
昭和55年4月 大分県立大分雄城台高等学校教諭
昭和63年4月 大分県教育庁学校教育課指導主事
平成11年4月 大分県教育センター教育相談部長
平成14年4月 大分県教育庁人権・同和教育課長
平成16年4月 大分県立臼杵高等学校校長
平成18年2月 大分県教育委員会委員
(現在に至る)

平成19年7月
～平成20年7月 大分県教育委員会委員長

そして定年を迎えたのをきっかけに、生活をできるだけ「食」に重きを置いたものにしてみたいと思うようになり、結果、冒頭のような日々を過ごすことになったのである。

また、日々せっせと料理をしてみて「ものづくり」の楽しさと合わせて、家族にほめてもらえる喜びを実感できるのが嬉しいということに気がついた。そして何よりも四季の移り変わりに敏感になり、食材の旬を逃がさず食卓にのせることができることで家族の話題が増えるのありがたい。美味しい料理を食べれば誰でも自然に笑顔になれるし、元気が出る。ささやかだがそんな家庭料理を作り続けたいと願っている。



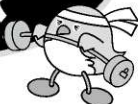
おせち



このコーナーでは、6人の大分県教育委員のエッセイを掲載します。教育委員は、県議会の同意を得て知事が任命します。教育委員6人の会議で、県の教育行政の重要事項や基本方針等を決定します。

学校、地域、家庭と三者で進める協育の取組を紹介 ③

きょういく
支え隊



大分県教育委員会では、「協育」の大切さを認識し、「協育」に取り組む方々を応援しています。

「教育だよりおおいた」ではシリーズで、教育を支える人々を取り上げ、その活動を紹介しています。シリーズ第3弾の今回は佐伯市立佐伯城南中学校での取組を紹介します。

佐伯市では、子どもたちが働くことの意義や色々な職業を学んで、自分の進路を主体的に決めることができるようにするキャリア教育を全小・中学校で進めています。

佐伯城南中学校では、公民館に配置されている学校支援コーディネーターの働きかけによって、ショッピングモール「コスモタウン」などに職

場体験の受入事業所を拡げることができ、今年の3年生は市内計28か所で仕事を体験することができました。

市役所の仕事を体験した生徒は、「市役所の仕事は、学校の授業と同じようにひたすら机に向かって仕事をするものばかりだと思っていたのに、実際には一生涯命体を動かしたり、いろいろなことについて真剣に話し合いをしたり、活気溢れる職場だということを知りました」と、自分が思っていた印象との違いに驚いていました。

また、ゴミ処理の仕事を体験し、「佐伯市のごみの実態についても深く知ることができました。実際に仕事もさせていただいたので家に帰るときにはくたくたになっていました」と市役所の仕事の身近さと働くことの大変さも実感できたようです。

一方、子どもたちを受け入れていただいた事業所では、「2日間という短い時間の中で、子どもたちが将来の職業についてまで考える機会にするには、どうすれば良いのか」といった悩みも聞かれましたが、「もっと学校と打ち合わせることができていれば、もっと有意義なものにな



佐伯城南中学校はどんな学校？

・昭和27年創立、今年で開校58年を迎えます。
・市のほぼ中央に位置し、市内で2番目に生徒数(379人)の多い学校です。

ったのに」と、今後に生かせる提案もいただきました。

11月14日の「第5回佐伯市社会教育振興大会」では、佐伯城南中学校生徒による「職場体験を通して」と題した実践発表が行われました。

そして、教師、受入事業所代表者、保護者によるシンポジウムの中で、職場体験を通した「協育」のあり方が話し合われ、「いつも子どもをまん中に」考えていくことを確認し合いました。